

くりし、次に轟音（ごうおん）と爆風。母が押入れから布団を出して、三人でかぶりました。おかげで、何のケガもなく爆風の被害だけで助かりました。

爆心地から逃れてきた人たちの姿を見て、原爆の恐ろしさ、戦争が地獄であることを知りました。原爆の詳しい状況は省略しますが、学校も焼け、友人も死に、一瞬にして市街地を地獄にした核爆弾を許すことはできません。まぶたの奥に焼き付いた、この世の地獄を忘れることはできません。

戦争さえおきなければ、私の人生も変っていたと思うのです。これが運命というものでしょう。

